

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2015年12月1日
No.304



平和パレード=2015年11月3日、第22回鳥取県高齢者大会 (=記事 P4)

11.9「11 月度事務局団体会議」「日高連運営委員会」開く 日本高齢者運動連絡会

日本高齢者運動連絡会は 11 月 9 日 (月) 午後、2015 年 11 月度事務局団体会議・日高連運営委員会を開き、14 団体と事務局あわせて 19 人が出席しました。

◇

1. (1) 各県・団体の報告…戦争法廃止訴え行動、HPH (WHO が推奨している、地域の健康づくりに貢献する「健康増進活動拠点病院」) のネットワークづくり (民医連)。11/1 神戸で堀木訴訟提訴 40 年記念の市民集會に 200 人、若者の姿も。「父なる朝日訴訟、母なる堀木訴訟」今後も人権としての

社会保障可決にむけて頑張ろう (建交労)。10/28「25 条大集會」に 4000 人を超えて集結。11/25-26 中央行動、マイナンバー学習会も開き今後の対応を協議していく (全生連)。10/22 命を守る国民集會に実行委員会として参加。総がかり行動 2 千万署名や労福協呼びかけの奨学金給付に関する署名に取り組む (医福連)。100 万署名を年末までに。年金裁判は全体で 3710 人の原告、12/2 に行われる東京 760 人の原告での第 1 回口頭弁論に向けて大々的な集會やマスコミへのアピールなど。大成功の年金

者一揆、今後は地域に密着した「年金者一揆」をつくっていく（年金者組合）。11/20「輝く高齢期神奈川のつどい in 川崎」を開く。戦争法案をめぐる問題とマイナンバーについて、アメリカ人からみた日本の思いやり予算（神奈川）。県内で名古屋市以外のキャラバン終了しこれから名古屋市内、「年金者一揆」を県内4カ所で開催。10/10 高齢者大会に600人（愛知県）。生活保護を支援する会で井上先生に話をしてもらった。茨城でも支援する会を作っていく（茨城県）。14日に地域の事業所の方々をシンポジストに介護

シンポジウムを開催。県高齢者大会を来年4月に開く（静岡県）。2. 1) 和歌山県実行委員会から10/29の実行委員会で確認された総括の報告があり、10/29をもって和歌山県実行委員会解散。2) 中央実行委員会の総括案 3) 第30回大会の意義について 3. 1) 年末座り込みと厚生労働省交渉について 2) 2・1集会について 4. 1) この会議の名称について 2) 事務局次長体制の確立について、提起・報告があり論議を行った。

いのちと暮らしを守り～高齢者が大切にされ豊かに過ごせる平和な社会を 10・10「第19回北海道高齢者大会」に250人 北海道高齢期運動連絡会

開催日 10月10日 北区民センター
大会参加者 250人、10団体、6地域



熱い討論 第2分科会



沖縄の現状を語る影山あさ子さん

大会の意義・役割

2015年第19回道高齢者大会は、「いのちと暮らしを守り～高齢者が大切にされ豊かに過ごせる平和な社会を」集会テーマに開催しました。年金引下げ、消費税増税、社会保障制度の改悪、集団的自衛権の閣議決定・「戦争法」強行による憲法9条解釈改憲の攻撃に反対し、憲法と暮らしを守り、生きがいと輝く高齢社会を実現するための運動を進めてきました。私たちは今年も地域・団体・各分野の取り組みや経験を分科会などで出し合

い討論を深めました。今年も年金者組合小樽支部「うたごえ広場ねんきん」の皆さん方の協力によるうたごえ広場の開催や「そば打ち」の体験コーナー、「押し花」「刺し子入りの袋物作り」の講習など準備しました。多くの方楽しんでいただけたと思います。

全体会

満席状態ではありませんでしたが、そこそ席も埋まりオープニング。道退教のコーラス「コールドーン」は例年通りの美しい歌声で会場の雰囲気盛り上げました。美馬実行委

員長の挨拶の後、道生連より「新人間裁判」の訴え、年金者組合より「年金引下げ違憲訴訟」の報告と支援の訴えがありました。祝辞・メッセージ紹介の後、記念講演に入りました。「沖縄と日本の未来—撮影の最前線から」と題し、映画監督の影山あさ子さんが沖縄辺野古の基地ゲート前の座り込みや海上での抗議行動を自ら撮った映像を使いながら解説。警察や海上保安庁の今までにない容赦のない弾圧姿勢が映像で明らかされました。

また、沖縄の基地問題と「戦争法」の関連をわかりやすく説明。最後にユーモアをまじ

えて、「みなさん沖縄辺野古での座り込み」一緒に行って沖縄のおじい・おばあといっしょに頑張りましょうと呼び掛け、多くの人に感銘と感動を与えました。

体験コーナー ソバ打ち（年金者組合）

第1分科会「冬の暮らしをどうするか—いのちと暮らしを守るために」

第2分科会「戦前、戦中の教育と今日の教育」

第3分科会「今、日本の平和は？」

講座「これからどうなる医療・介護」報告

講習「押し花」「刺し子入りの袋もの」

交流「歌声の広場」うたのちから

「第19回北海道高齢者大会をふりかえって」より抜粋

「戦後70年 憲法いかし 格差のない公正な社会を」 10・31「第17回青森県高齢者大会」に348人 青森県高齢者運動連絡会

開催に至る経過

9月19日、政府与党は国民の8割が「説明不足だ」「今国会で成立させるべきではない」としているにもかかわらず、参議院本会議で戦争法案を強行採決しました。立憲主義と民主主義を蹂躪し、戦争する国づくり、社会保障の解体など、いのちと健康、くらしを脅かす政策に突き進んでいます。

加えてわが県は、基地問題や原発問題、少子高齢化や貧困問題、雇用問題、健康問題など、多くの問題を現在進行形で抱えています。高齢者をはじめ多くの地域住民が抱える悩みや問題意識に寄り添い、情勢学習を中心に開催されてきた県高齢者大会は、2014年度までに16回の開催を数え、社会問題にしっかりと対峙してきました。

今年度も、これまで蓄積された知識と経験をもとに、高齢期運動の更なる発展を求め、「戦後70年 憲法いかし 格差のない公正な社会を」をテーマに第17回県高齢者大会を開催するに至りました。

日時・会場

2015年10月31日（土）10時～15時



記念講演 伊藤千尋氏

リンクステーションホール青森にて

参加目標及び実績

参加目標 400人に対し348人の実績。

プログラム

司会: 工藤 美代子氏（津軽保健生活協同組合）

開会セレモニー「高橋哲子、津軽を唄う」

開会挨拶 二川原 一氏

日本高齢者大会和歌山報告 佐藤 芳郎氏

記念講演 伊藤 千尋氏

特別決議 小笠原 邦定氏

ストレッチ 青森保健生協職員

昼食

学習講座・分科会



第2分科会の様子

●学習講座

テーマ：『どうなる、これからの医療・介護』

講師：大竹進氏

●第一分科会

テーマ：『高齢期を安心して暮らすには』

指定発言：神田洋一氏

●第二分科会

テーマ：『いま風、井戸端会議』

コーディネーター：福井典子

まとめ

14年度青森県高齢者運動連絡会総会にて県高齢者大会の参加目標（400人）を確認し、今年度4月から10月までの7ヶ月間にわたり、日程・会場選定はじめ、プログラ

ムづくりなど準備をすすめてきました。

参加者数については、関係団体による他行事等の繁忙期ということもあり、残念ながら目標には届きませんでした。厳しい情勢に立ち向かい、乗り越えようという気運づくりに適したこの時期に開催することができ、348人もの方の来場者を得ることができたことは、大きな成果だったと言えます。また、アンケートでの回答のとおり、伊藤氏はじめ各種講演、分科会などいずれのプログラムも概ね好評で、高齢期をめぐる様々な問題を深め合い、力に変えるという意味では、今大会で得たものは大きかったと確信しています。一方で音響やタイムテーブルの厳守、参加者のマナーなど運営について少なからず意見が挙がっていたことから、一部に課題を残しましたが、大きな事故もなく、全体として有意義なプログラムを提供できたこと、加えて青森市、青森県老人クラブ連合会や青森県市長会など12団体から後援をいただいたこと、青森県生協連など15団体から広告協賛の協力を得たことなど、広がりを持った取組みができたことは、今後の高齢者運動に向けた大きな成果と教訓になりました。

「第17回青森県高齢者大会報告集」から抜粋

記念講演・4分科会のあと「平和パレード」も 11・3「第22回鳥取県高齢者大会」に130人 鳥取県高齢者運動連絡会



第3分科会



澤地久枝さんのよびかけに連帯し
11・3「アベ政治を許さない」全国一斉アピール

第22回鳥取県高齢者大会を11月3日(祝)とりぎん文化会館で開催しました。参加者は130人でした。今年は、記念講演に日本高

齢者運動連絡会顧問の篠崎次男氏をお招きし『高齢者の生活問題と高齢期運動の課題』をテーマにお話いただきました。仲間づくり、

まちづくりを日常生活圏において多様な団体と協同してすすめることの大切さを学びました。午後からは、分科会、平和パレードと、参加者が積極的に取り組み、大会を成功させることができました。

来年、日本高齢者大会は東京、鳥取県高齢者大会は米子で開催予定です。もてる力を発揮して、地域にたよりにされる高齢期運動を大きく広げていきましょう！

プログラム

◇開会あいさつ

◇日本高齢者大会参加報告

◇記念講演 篠崎次男氏

◇昼食・休憩 お楽しみ抽選会

◇分科会

①「地域から頼りにされる高齢者運動づくり」

②「誰もが安心してらせるまちづくり」

③「若い人も高齢者も安心できる年金制度を」

④「平和のために高齢者だからできること」

◇閉会あいさつ

◇平和パレード

「鳥取市9条の会はと風船実行委員会」& 「安保関連法案に反対するママの会@とっとり」の皆さんと合流し、市役所までパレード。平和パレードの取り組みが11/4付朝日新聞に掲載されました。

2015年11月5日発行

「鳥取県高齢者大会 in 鳥取ニュース」より抜粋

11・10「第27回大分県高齢者大会」開催

大分県高齢者運動連絡会

第27回大分県高齢者大会が11月10日、大分市ホルトホールで開催され82人が参加した。参加者が予定より少なかったものの参加団体から積極的な発言があり盛り上がった。

大会は最初に事務局長が「戦争法案廃止を目指す2000万署名に取り組むこと、社会保障制度の全面改悪を阻止する等の基調報告を行った。記念講演は大分県医療生協けんせい歯科クリニックの後藤芳枝所長が「口はいのち

の入口、健康の入口」のテーマで話した。つづいて日本高齢者大会和歌山大会の報告と年金者組合、新婦人、医療生協、生健会から活動報告があった。最後に第27回大分県高齢者大会アピールを採択した。

大会には大分合同新聞と赤旗の記者が最後まで取材し、新聞に記事が掲載された。

(大分県高齢者運動事務局 大伴)

第27回大分県高齢者大会アピール

安倍内閣は9月19日に圧倒的な国民の声を無視し、戦争法案を強行可決した。戦争法阻止の運動は国会に「戦争法」が出されて以後、大きな国民的運動として発展した。憲法学者、大学教授、弁護士団体、シールズの学生、ママの会組織などまさしく広範な人々が立ち上がった。戦争法が可決された後も継続して運動が進められている。私たち戦争を経験したことのある高齢者はもちろん多くの高齢者も立ち上がった。私たちは再び戦争への

道を歩むことは絶対に許すことはできない。戦争への道は社会保障の改悪と表裏一体である。

安倍内閣は後期高齢者の保険料を「特定軽減措置」の廃止により平成27年4月から引き上げることを選んだ。保険料が上がれば滞納者が増え、資格証明書の発行により医療を受けられなくなる高齢者が増加することは明らかだ。年金はマクロ経済スライドの導入で毎年引き下げられることになり、年金の支給開

始年齢のさらなる引き上げも検討されている。私たち高齢者はこのような戦争への道を絶対に許さず、だれでも安心して暮らせる社会を目指して社会保障の充実のために多くの高齢

者の皆さんが立ち上がることを呼びかける。

2015年11月10日
第27回大分県高齢者大会

70年平和を守りぬいた高齢者が立ち上がり 誰もが安心して高齢期を迎えられるよう 11・16「第27回東京高齢者のつどい」に800人 東京高齢期運動連絡会



11月16日「第27回東京高齢者のつどい」が杉並公会堂で開かれ、800人近くの参加者がありました。

この「つどい」は、都内の年金者組合をはじめとした民主団体・労働組合と、地域の高齢者運動連絡会等で構成する「東京高齢期運動連絡会」が毎年開催しているものです。

「つどい」では、国際ジャーナリストの伊藤千尋氏が「世界の現場から見える希望ある未来」と題して講演。自ら取材した中南米の民主化の経験が語られ、「軍事政権下のチリでも憲法を根拠に民主化を勝ち取った。日本での国民連合政府づくりはもっと可能性が高い」と呼びかけました。また、原発推進の不当性も力説し「日本の自然エネルギー技術が欧州の脱原発政策を支えている。日本も原発をやめさせよう」と呼びかけました。

「地域からの発言」では医療生協と購買生協が協力した福祉のまちづくり（練馬区）、

年金引き下げを許さない違憲訴訟の取り組み（年金者組合）、居場所のある地域づくりとして老人クラブやコミュニティサロン（カフェ）の取り組み（小平市）が生き生きと語られました。

文化行事では「東京高齢者・うたごえ」合同合唱、カンツォーネ独唱、原爆詩の朗読があり、大きな拍手に包まれました。

最後に「70年の平和を守り抜いた高齢者が、夢と大きな展望をもって立ち上がり、誰もが安心して高齢期を迎えられる民主主義の花開く時代への道を切り開こう」「来年8月の第30回日本高齢者大会in東京成功させよう」というアピールを採択しました。参加者からは「初めて参加しましたが今後の活動の参考になり元気になりました」「高齢者の強さと明るさにとてもうれしく参加してよかったです」などの声が寄せられました。

8年ぶり「第5回群馬県高齢者大会」に150人 ～まちから村からの連帯で、ひとりぼっちの高齢者をなくそう～ ～若い人も一緒に高齢期を考えよう～

群馬県高齢期運動連絡会



群馬県高齢者運動連絡会は、第5回群馬県高齢者大会を11月17日（火）午後、群馬県社会福祉総合センターで開きました。参加者は、150人（構成団体：16）でした。大会は実に8年ぶりの再開であり、群馬県の高齢期運動のこれからを励ますものとなりました。この間、日本高齢者大会参加、「南の島に雪が降る」（前進座）上演運動、群馬年金裁判支援の取り組みなど通じて、年金者組合や高退教、全群退教等との共同の取り組みが進みました。

第1部：加盟団体・地域からの報告、第2部：記念講演「戦後70年 日米安保を考える～辺野古新基地建設問題と国会情勢～（赤嶺政賢氏）



第1部では、①第29回日本高齢者大会参加の報告（2人）②年金引き下げ違憲訴訟について ③医療と介護をめぐる現状と諸課題について、4人の報告者から高齢者大会の報告とそれぞれの運動課題の提起がありました。第30回日本高齢者大会参加の呼びかけ、日本の社会保障の現状とめざす方向等共有し、また群馬での高齢期運動についても認知度を高めることができました。

第2部の記念講演は、国民の焦眉の課題である「安保法制」：戦争法について、戦後



70年（それ以前も含めて）の沖縄県民の民族自決の闘いと“オール沖縄”に到るまでの県民の人権と民主主義を守る努力と苦悩・知恵・感動の涙の今日までをしっかりと胸におさめました。赤嶺氏の講演は、氏の50年来の親しい県内の同窓生の誼で、過密スケジュール



ルの中で辛うじて実現したものです。

「弾圧は抵抗を呼ぶ 抵抗は友を呼ぶ」（県民の言葉になっている）、「県民は負けない なぜなら勝つまで闘うから」、「万策尽きたら最後は夫婦で座り込みます」（翁長樹子・知事夫人：辺野古「座り込み」支援で＝裁判所が正義を決めるとは限らない、それでも民意をつらぬきます。）等々 参加者は心を揺さぶられ目頭を熱くしながら聞き入りました。記念講演は、群馬県の高齢期運動の今後に大きな糧となりました。

（群馬県高齢者運動連絡会事務局次長・樋口聖次）

第5回群馬県高齢者大会アピール

安倍自公政権は、国民多数の声を無視し憲法違反の安保法制＝戦争法案を強行採決してしまいました。戦争法には、日本国憲法第9条を破壊して自衛隊を海外に派兵する仕組みが数多く含まれています。国民の力で歴代日本政府に60年余にわたって続けさせてきた「憲法9条のもとでは集団的自衛権行使は許されない」という憲法解釈を、一内閣の専断で180度ひっくり返すものです。このような戦争法は廃止し、立憲主義・民主主義を直ちに取り戻さねばなりません。

憲法解釈を勝手に変え、憲法に攻撃を加える政権の姿勢は、安全保障問題だけでなく社会保障においても際立っています。昨年4月からの消費税8%への増税、年金の削減、「医療・介護綜合法」による医療費の自己負担増や介護保険料の値上げなど、高齢者の暮らしを直撃しています。また国が進める「地域包括ケア」は、自助、共助が基本とされ「高齢者の介護は本人と家族がやるべきこと」として国の責任を放棄するものになっています。

私たち高齢者は、あの悲惨な戦争体験と戦後の厳しい生活から教訓を身につけ『戦

後70年 憲法をいかし、格差のない公正な社会を』（第29回日本高齢者大会テーマ）をきっかけ、日本を「戦争する国」にさせないために、

- ① 「戦争法」を廃止させるための広範な運動と世論づくりをすすめます。
- ② 人命軽視の原発再稼働を中止させ、福島切り捨てを許さず、安全・安心の平和な日本をつくる運動をひろげます。
- ③ 年金、医療、介護など高齢者のくらしの実態を明らかにし、多彩な要求実現運動に取り組みます。
- ④ 県内各地で高齢者の願いを実現するため地域連絡会づくりをすすめます。
- ⑤ 日本高齢者大会に結集して全国の高齢期運動に学び、経験交流を深めます。
- ⑥ たまり場・サロン活動、ふれあい訪問、安否確認の取り組み、居場所づくりなど、ひとりぼっちの高齢者をつくらない取り組みをすすめます。
- ⑦ 自治体への要望などは、地域の社保協など諸団体と共同して取り組みます。

2015年11月17日
第5回群馬県高齢者大会

DVD「THE・おもいやり」を見て聞いて 軍事費削って福祉に回せ 「輝け高齢期かながわのつどい in かわさき」に453人

神奈川県高齢期運動連絡会

11月20日「輝け高齢期かながわのつどい in かわさき」が川崎市産業振興会館で開催され、県内各地から453人が参加しました。

「戦争法廃止に高齢者の力を発揮しよう」という宮原春夫実行委員長の開会あいさつに続き、日本高齢者運動連絡会の藤谷事務局長が、

「来年30周年を迎える日本高齢者大会 in 東京を首都圏の力で成功させよう」と呼びかけました。

続いて前自由法曹団長の篠原義仁氏が、「戦争法廃止をめざし、立憲主義、民主主義の全面展開を」と題して講演しました。篠原氏は、戦争法の論議を無視して制服組が着々と戦争準



備を開始していることを、資料を使って明らかにし、「戦争体制は現場で進んでいる。その現場が、軍事産業が集中する川崎や米軍がいる横須賀だ」「今急速に軍事費が膨れ上がっている。軍事費を削って福祉に回せ！という要求が大事」「戦争法廃止の署名を軸にそれぞれの運動を持ち寄る相互乗り入れ型のとりくみを重視しよう」と話し、会場から何度も共感の拍手が起こりました。

基調報告は、塚原信介県高齢期運動連絡会事

務局長が行い、「一億層活躍社会といっても“産めよ、殖やせよ”の発想で、GDP も出生率も、介護離職ゼロも実現の保証は何もない」「今こそ地域に共同の場を作って高齢者を独りぼっちにしないまちづくりをすすめよう」と呼びかけました。

午後からは、アメリカ人のリラン・バクレーさんが、「THE・おもいやり」と題して、ご自身がアメリカで「日本の米軍へのおもいやり予算はおかしくない？」というインタビューをする様子を撮影した DVD を紹介し、「どこの国民も他国の軍隊のために考えられない多額の支出をしている日本はおかしいと思っている」「このおもいやり予算を止めさせ、国民のために使わせましょう」と話しました。参加者は、はじめて聞く外国人から見たおもいやり予算の話と上手な日本語、鋭い問題提起に聞き入っていました。

その後松平晃さんのトランペットや「あいうべ体操」、腹話術やフラダンス、津軽三味線の鑑賞などで楽しい一日を過ごしました。

孤立しない=共生型住まいづくりを提言 超高齢社会における地域居住政策 5 視点

NPO 法人建築ネットワークセンター



「超高齢社会のすまいづくり・まちづくり=人間らしい住まいをめざして」の講演会が 11 月 14 日、東京新宿区で開かれました。主催は、NPO 建築ネットワークセンターで、講師は和洋

女子大学教授中島明子さんでした。

講師は、住宅の四つの役割として①人間として生きるための生活の器、②社会生活の基盤(基地)、③地域で生きる存在証明(住所地がある)、④地域の景観を形成する、として「住まい」とは、「生活を含めた人が暮らす拠点」とであると定義しました。

隠れたホームレスの増大や生保の住宅給付の削減など居住の貧困と居住の危機に触れ、戦後日本の住宅政策が「貧困住宅(民間賃貸住宅)を温存し自力自助を基本とする持家主義住宅政策」に問題があると指摘しました。

超高齢社会における地域居住政策を考える 5 つの視点をあげました。

①「目標の転換」人々の生活の質を満足する居住政策へ、②居住の権利 HousingRights と適切

な質をもった住まい、③居住の安定を支える居住支援(支える人)のしくみ、④地域コミュニティの中で生きるための共生と共同の居住政策、⑤持続可能な住まいと居住環境=既存住宅の管理と改善(リフォーム、リノベーション、リ・デザイン)と地域環境の持続可能性を考慮した住まい・環境づくりをあげ、持家をどう使っていくかを考えていくことが必要とし、「住宅」政策から「地域居住」政策への転換を強調しました。

さらに、社会住宅(公共住宅)の開発とこれを補完する住宅費負担の補助が必要としました。住宅費補助の利点として、既存ストックの活用と質の向上、居住地選択の自由度の拡大、貧困

の非視覚化、生活保護への移行の抑止をあげました。

デンマークの共同住宅のシニア・コ・ハウジング・・・みんなが集まってくらせる場所がある住まいを紹介しました。超高齢社会の日本でも孤立しない住まい=共生型の住まいづくりが今後の課題としました。

(記 鐘ヶ江正志)

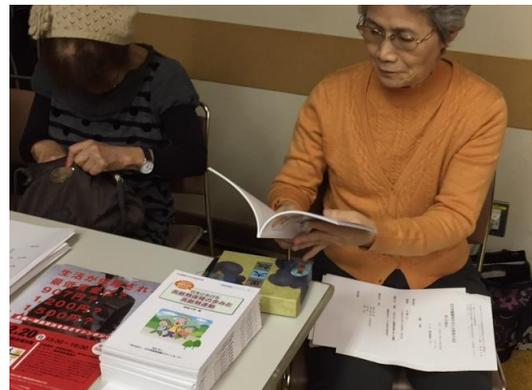
※紹介「デンマークのヒュッグな生活空間」
中島明子著 (萌文社 2592円)

★ヒュッグ Hygge ⇒和かなくつろぎの
温かさ・人とものがよくなじんだ時に現れる・・・デンマークの社会的価値を表す言葉。

生活保護の改悪は許さない 11・26 「生存権裁判を支える新宿の会総会」 生存権裁判を支える新宿の会



生存権裁判を支える新宿の会は 11 月 26 日、区内で総会を開きました。一部で「日本の高齢期保障の歩みと課題」をテーマに篠崎次男さんが講演しました。篠崎さんは、明治時代の恤救規則から今日までの高齢期保障の変遷とその時々の背景を



整理しこれからの課題を提起しました。受付では「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」篠崎次男著((社)日本高齢期運動サポートセンター発行)の販売もされました。

(記 鐘ヶ江 正志)

※日本高齢者大会中央実行委員会 開催のお知らせ

○ 日時： 2015年12月15日(火) 午後1時30分～午後4時30分

○ 会場：東京国際フォーラム会議室 (ガラス棟 G402)

(東京都千代田区丸の内3-5-1)

JR「有楽町」駅 徒歩1分

JR「東京」駅 徒歩5分

過日、議案書をお送りしています。当日ご持参ください。

※第29回日本高齢者大会 in 和歌山 報告集

近日中に完成予定

(定価 1,200円)

※第29回日本高齢者大会 in 和歌山 DVD

☆高齢者運動連絡会関係限定販売

<特色> 和歌山大会の記録 ダイジェスト (15分)

安齋育郎氏の記念講演 (70分)

(定価 500円)

※篠崎次男氏著 高齢期運動のブックレットNo.2

「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」

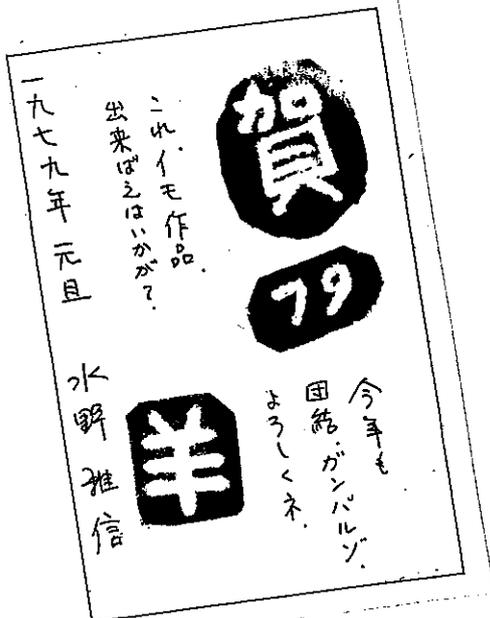
発刊(社)日本高齢期運動サポートセンター

(定価 500円)

日本高齢者大会が始まってから30年。最初から高齢期運動の先頭に立ってきた筆者が、
高齢期運動の歴史と成果をまとめ、新たな高齢期運動のあり方を提起します。
高齢期運動を学ぶテキストとして最適です。

*お申し込みはFax 03-3384-6654

39年続いている版画「年賀状教室」 横浜の公務員労組の年末行事



篠崎次男日高連顧問の版画年賀状 2010年の寅年（郷土玩具）

日本高齢者運動連絡会顧問の篠崎次男さんは、郷土玩具の収集もしており、2010年の年賀状に、寅の郷土玩具をスケッチして版画に。「日本高齢者運動連絡会ニュース」No.177（2010・1・15）の表紙を飾ってもらいました。切れ味のいい作品です。

日高連事務局

横浜のある公務員労働組合は、1979年から毎年、版画の「年賀状教室」を開いて今年で39回目。当初は「切り絵」も合わせ80人ほどの参加が、今は10人ほどです。それでも、中休みにふかし芋を食べながら、「ここに来れば、掘る気になる」と、子どもさん連れの人も。PC時代の今、原画は無くなり、かつての作品をコピーして使います。

(取材：日高連事務局)

